

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク実習の理解 (DB209)			担当教員	裏 孝承・野田 健・梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉の学びを社会福祉士取得へと結実させることを意識し始める 2 年次には、これまでの座学による知識・技術の習得に加えて、実践能力をつけるための実習の重要性を理解し、その準備を行うことが課題となる。そのために設定されたこの科目では、対象者の生活課題と思い、専門職養成における実習の一般的意義、社会福祉士養成における実習の位置づけ、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士、実習実施の方法・形態、実習における指導の特質と評価について、その概要を学び、それらについて基礎的理解を固め前進させることをねらいとしている。</p> <p>また、ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業の展開においては、課題に基づいたレポート作成やディスカッション、グループワークを受講生が行う。この科目は、実習に向けて具体的準備を行う「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(社会)」へつながる科目であり、社会福祉士取得希望者は履修することが必要である。</p>							①②④⑥⑦ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	相談援助実習に取り組む意欲、実習へ向けての積極的態について文章化して表現できる。				・課題レポート	20%	
情報収集、分析力	社会福祉士への育ちの過程には実習が重要な位置を占めることを理解し、相談援助の担い手としての価値・倫理観、自己覚知と自らの課題を考えることができる。				・授業態度 ・授業内課題	10% 10%	
コミュニケーション力	相談援助事例において、これまで習得した知識・技術を活用した支援を構想することができる。				・授業態度	10%	
協働・課題解決力	相談援助実習の意義と内容、方法・形態を説明できる。				・課題レポート ・授業内課題	20% 10%	
多様性理解力	福祉機関の利用者の多様性を理解することができる。多様な人びとと共生し、仲間や家族となつて力を合わせて暮らすことを想像しその意味を理解することができる。				・課題レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業態度(20%)は、授業への参加の姿勢から、実習に取り組む意欲・態度を有しているかを判断する。また、グループワークの積極性とプレゼンテーションの適切性で評価する。課題レポート(60%)は、①ゲストスピーカーの授業内容を記録し、記録の適切性を評価する。②新聞・ニュースのスクラップを行い、考察を行い、実習で求められる支援場面における知識・技術の活用能力をみる。授業内課題(20%)は、授業の振り返りをポートフォリオで提出することで、相談援助の担い手としての価値・倫理観をはじめとして、実習の意義と内容、方法・形態などを説明できるかどうかを問う。課題レポートと授業内課題は、締め切り日を厳守し、フィードバックは、授業内で行う。なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等)は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>専門職養成における実習の一般的意義、社会福祉士養成における実習の位置づけ、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士、実習の方法・形態、実習における指導の特質と評価等について、概要を講述する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門] (最新社会福祉士養成講座8)』中央法規。 参考書：必要に応じて紹介する 指定図書：長崎国際大学社会福祉士実習報告書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>今日の社会福祉士養成課程においては、実習の重要性が改めて認識されている。実習では、座学で学んだ理論、演習で取り組んだそれら理論の活用法、加えて、実習生がこれまでの人生で培ってきた物事への取り組み方など、すべてが動員される。そこで、自らのものの考え方の特徴や傾向、行動のあり方、抱える課題などを見つめるように努力してほしい。また、現場の姿を具体的に知るために、積極的にボランティア活動に取り組んで欲しい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (本授業の意義) (裓、梅野、野田)	本授業「ソーシャルワークの理解」及び「ソーシャルワーク実習」の全体的な流れや本授業での課題について説明をする。	予習：シラバスを読む。 復習：本授業に臨む心構えを明確化する。
2	ソーシャルワーク実習の位置づけ及び援助の視点と自己覚知 (野田、裓)	社会福祉従事者にかかる養成制度と養成課程等を理解する。また、自分自身に対する理解を深める。	予習：第1章第1節を読む。 復習：授業内容の振り返りを提出する。
3	記録の練習 (裓、野田)	実習における記録について学ぶ。また、DVDの事例を用い、記録・メモーについて練習を行う。	予習：資料を読む。 復習：記録をまとめてくる。
4	社会福祉の対象者と支援形態について理解する① (裓、野田)	高齢者福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：高齢者福祉についてスクラップの課題をする。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
5	社会福祉の対象者と支援形態について理解する② (裓、野田)	地域福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：地域福祉についてスクラップの課題をする 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
6	社会福祉の対象者と支援形態について理解する③ (裓、野田)	障がい福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：障がい福祉についてスクラップの課題をする 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
7	ゲストスピーカーの話の振り返り(高齢者・障害・地域分野)(裓、野田)	高齢者、障害、地域福祉分野のゲストスピーカー記録とスクラップを用いてディスカッションし、共有する。	予習：前回の記録と資料を読む。 復習：振り返りシートを提出する。
8	実習における礼儀作法① (裓、野田)	実習が行われる施設・機関は実社会であり、大学とは異なる。社会人の卵としての実習生に求められる礼儀作法(電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：前回の記録と資料を読む。 復習：振り返りシートを提出する。
9	実習における礼儀作法② (野田、梅野)	実習が行われる施設・機関は実社会であり、大学とは異なる。社会人の卵としての実習生に求められる礼儀作法(電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：前回の記録と資料を読む。 復習：振り返りシートを提出する。
10	社会福祉の対象者と支援形態について理解する④ (梅野、野田)	児童福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：児童福祉についてスクラップの課題をする。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
11	社会福祉の対象者と支援形態について理解する⑤ (梅野、野田)	医療ソーシャルワークの仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：医療福祉についてスクラップの課題をする。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
12	ゲストスピーカーの話の振り返り(障がい者・地域分野)(梅野、野田)	児童・医療分野のゲストスピーカー記録とスクラップを用いてディスカッションし、共有する。	予習：前回の記録と資料を読む。 復習：振り返りシートを提出する。
13	実習におけるスーパービジョン (梅野、野田)	事例を通して、ほう・れん・そうについて学ぶ。実習に取り組むねらいと目標をグループワークで確認する。	予習：教科書第1章第2節を読む。 復習：振り返りシートを提出する。
14	実習後の対応(野田、梅野)	お礼状の書き方など、実習後に行う内容について理解する。	予習：一般的な礼状作法について調べておく。 復習：授業内容をまとめる。
15	本授業のまとめと実習への心構え(梅野、野田)	実習に行くことを希望する理由、実習に関する不安を他学生と共有し、実習に行く目的、目標を明らかにする。	予習：実習に向けた不安や目的などを整理する。 復習：実習への目的・目標をまとめる。